

05 リニアインパクト最大化プロジェクト
~2037年に三重県が変わります!~

リニアで繋がる三重の絆

この活動では、早ければ2037年に全線開業が予定されているJR東海のリニア中央新幹線によって、三重県にどのような効果をもたらされるのかなど、三重県におけるリニアインパクトを分析し、三重県庁 広域交通・リニア推進課の方々と共に協力して、このインパクトを最大化できるような様々な活動を行っています。

メンバー数：17名
活動場所：伊勢市
実施主体：三重県 地域連携・交通部 広域交通・リニア推進課
担当教員：笠原 正嗣（現代日本社会学部）
活動年度：R03,R04,R05



1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

この活動の現在の所までの成果としては、主に3つことが挙げられます。

1つ目の成果は、中津川市視察です。本年も前年度に引き続き、リニア中央新幹線に関する視察を行いました。同じ名古屋駅を挟んだ中間駅を抱える先行開業区間の岐阜県中津川市の駅建設現場を中心に、周辺開発の現状把握や行政の方との懇談を行いました。今回の視察を通して、三重県にも取り入れられるものはないかを前年度の亀山市視察で得られたものとともに探り、自分たちなりに考える開業効果を最大限に活かせる案の策定に繋げることができたと感じます。

2つ目の成果は、倉陵祭への出展です。今年度、初めて倉陵祭に出展することができ、皇學館の学生だけにとどまらず、訪れていた地域の人や南勢地域に住む人たちへ、直接周知活動を行うことができ、大変意義のある出展活動が行えたと思います。

3つ目の成果は、三重県に対するリニアインパクト最大化に向けた提言についてです。今年度、三重県による「リニア基本戦略(仮称)中間案」が作成されることに合わせ、今年で3年目を迎える本活動のこれまでの大きな一つの成果として、県庁担当者の方に対しての政策提言を行いました。県庁に伺わせて頂き、地域連携交通部の部長様を初めとした、職員の方々に直接発表させて頂く機会を得られたことは、本活動並びに学生にとっても、大変良い機会になりました。

今後の課題としては、リニアインパクトについての知識を政策提言の実施によってさらに深めることができたため、それらの知識を活かし、三重県南部(伊勢志摩、東紀州地域)に住む方々への周知と想定される開業効果しっかりと考察し、示すことにより、理解促進と県民の一体化による相乗効果による地域経済の活性化や新たなイノベーションの創出に繋がれるような活動を行っていきたくと考えています。



月別活動

- 6月 新幹線駅等事例調査
- 7月 視察準備、倉陵祭展示用ポスター制作
- 8月 中津川市視察
- 9月 倉陵祭準備
- 10月 倉陵祭参加、伊勢祭り参加
- 11月 三重県に対するリニアインパクト最大化に向けた提言の実施
- 1月 三重県「リニア基本戦略(仮称)中間案」に対するパブリックコメントの実施
- 2月 イオンモール津南にてイベント開催

活動を通して学んだこと

この活動を通して学んだことは、大きく分けて2つあります。1つ目は、リニアインパクトについての理解を更に深めることができたことです。本活動を行う上で、リニアインパクトについての理解を深めることは、とても重要なことです。今回行った政策提言に向けて、改めて考え直し、様々な事例に目を向けたことから、新たな発見もありました。2つ目は、活動の運営方法や書類の作成方法といった実務的な点です。本年度から本格的に学生主体の運営に移行したことにより、各メンバーが持ち回りで司会進行を行ったりと、議事録の作成を行ったりと、メンバーが一丸となって成長することができたと思います。今年度は、政策提言などもあり、実施主体である県庁担当者の方のサポートのもと、文書作成や発表の仕方など、普段の講義などでは学ぶことの出来ない、社会に出てから重要な実務的な側面を学ぶ機会が多くあり、各々がとても成長できた1年であったと思います。

実施主体からのコメント

三重県 地域連携・交通部
広域交通・リニア推進課
ご担当者様

今年度は、昨年度末に実施したリニア三重県駅候補地(亀山市)の視察結果を報告書としてまとめてもらうところからスタートしました。

9月にはリニア岐阜県駅の建設予定地である中津川市に視察に伺いましたが、その結果を基に、リニア三重県駅にはどのような機能を持たせるべきかなど、積極的に議論していただきました。

11月には活動の集大成として、三重県に提言を行っていただくなど、短時間で難易度の高い課題を提示することが多かった年でしたが、リーダーと司会の方を中心に、毎回のミーティング前に当日の進行や時間配分などを提案いただくことで、月1回という短い時間を最大限に活かしながら活動に取り組むことができておと思っています。

また、「伊勢まつり」などリニア啓発イベントに出展する際には多くのメンバーの方にお手伝いいただくことができ、当日は大盛況でした。学内外での経験を通して、実りの多い1年でした。

担当教員より

現代日本社会学部 笠原 正嗣

活動3年目に入り、参加メンバーも増えて賑やかになりました。ホップ(1年目)、ステップ(2年目)を経て、本年度は「ジャンプ」の段階であったのですが、活動が一定の軌道に乗ったことを考えると飛躍の年であったと思います。学外での実践的活動として、開業に向けて建設工事が進んでいる中間駅の中津川市への見学・調査や市役所担当者とのディスカッションなど、さらに学びを深めることができました。毎月1回のミーティングを重ねた成果として、リニアインパクト(開業による社会・経済的効果)の理解も進みました。県庁担当者への政策提言(プレゼン)を実施するなど、大西リーダーを中心に頑張った実り多い1年間でした。それでも、まだまだ学ぶべき点が多く存在するので、メンバー間での議論を一層深化させて、主体的に活動を発展させて欲しいと思います。来年度は、「ジャンプ・第2段階」として、学外への情報発信にチャレンジしてはいかがでしょうか。みなさんの活躍を期待しています!

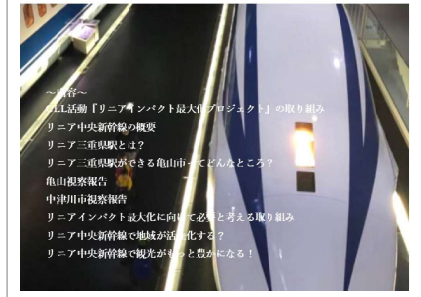


成果物 / 制作物

CLL活動「リニアインパクト最大化プロジェクト」

当活動の概要及び

リニア中央新幹線の仕組みと開業効果等について



倉陵祭啓発ポスター（令和5年度作成）

📢 - こんな人におすすめ!

- ・旅行や交通が好き
- ・観光開発や魅力の発信をしたい
- ・地域交通や地域活性化といった、地域の課題解決に興味がある
- ・県庁などの行政の仕事に将来就きたいと考えている
- ・実務的な経験を積みたい
- ・三重県規模で活躍したい